

様式B

平成29年度 幼稚園 ゆめプラン評価公表シート

和歌山市立宮前幼稚園

教育目標 心身ともに健康で、心豊かな子どもを育てる

ゆめ	重点目標	具体的取組	取り組みの状況	
豊かに感じ、意欲をもって遊ぶ子供を育てる	身近な環境や人とのかかわりを通して	身近な環境の中で様々な体験をする	園内外の環境を見直し、子どもたちが様々な体験ができる場の工夫をする。	園内外の環境を見直してきたが、子供たちの動線を考えてからも話し合っていく機会が少なかったように思う。来年も引き続き教育価値のある環境へ考えていきたい。
		安全点検を毎月行い、子供たちが安心して遊べる環境づくりに心がける。	安全点検は、常に頭に入れておいて、積極的に取り組んでいきたい。保育室から園庭にすぐ出られるように、道具の置き場所や樹木についても引き続き、考えていく。	
		食べ物を大切に作る気持ちを育てる。(給食指導・野菜の栽培を通して)	学年で発達に応じて栽培物を考え、取り組んだ。3歳児は、すぐに実のなる二十日大根・4歳児はクラスで夏野菜。5歳児は、自分の育てたい夏野菜を育てることで、生長を喜んだ。	
		食べることを楽しむ経験を多く取り入れる。	ジャガイモ・タマネギ・サツマイモ、ポップコーンの他、園庭にザクロ・ビワ・イチゴ・柿・梅も実になった。季節を感じ、自分で収穫し食することで食べることを楽しむ経験につながったように思う。	
	身近な人とのかかわりを深める	異年齢同士が交流をする場を多く設定する中で、異年齢との交流を図り、人とのかかわりを楽しめるようにする。	毎週の水曜日のわくわくタイムで異年齢児との交流する活動を計画し、毎回反省をして、次回につなげるようにした。	
		地域をおさんぼしたり、地域の人と触れ合ったりする機会を計画する。	地域をおさんぼすることは、計画していたものの職員の安全確保が保証されなかったり、天候が悪かったりすることが多く、なかなか園外に出る機会がなかった。計画の段階で、もう少し綿密にする必要がある。	
		隣接している小学校の児童・地域の保育所の園児や職員との交流を計画し、一緒に活動することでたくさんの人に親しむ機会をもつ。	小学校交流は、今年度は1年生ともあり、5歳児は小学校へ就学するにあたり、安心感をもてることにつながっていった。保育所との交流も5歳児のみだったが、地域の東和中学校体育館を借りて、2回実施できた。	
	保護者との連携を深める	降園時や園庭開放時に子供の様子を伝えたり、聞いたりすることに心がけ、子供がよりよい成長を考える。	今年度、駐車場問題も大きく、なかなか降園時に保護者と話せる機会を作るのが難しい。しかし、現状がかわらなければ、何らかの方法で、保護者と子供の成長について話す機会をつくらなければならない。	
		クラスだよりや掲示板を使って、幼稚園の様子や子供の様子をより詳しく伝える。	掲示板では、行事の度に保護者へ子どもたちの様子を知らせるようにしてきた。保護者も気にかけて見ている様子が伺えた。	

2. 保護者アンケート集計結果の比較から見えてきた成果や課題

・子供は、毎日楽しそうに幼稚園に通っているの項目に95%回答が得た。子供の家庭環境を背景に考え、どの子ども“幼稚園楽しい”と思えるように、今後も取り組んでいきたい。
 ・降園時や園庭開放時に・・・という項目が、あまりそう思わないという回答が21%もあった。保護者駐車場の確保が難しいが、来年度の大きな課題でもある。“子育て相談”という形で、降園後、気軽に担任と話せる時間を設けるなどの対策を考えていきたい。

3. 今年度の取組の成果と課題・今後の改善方策

・今年度、身近な環境を見直すことに着目した。今まであった環境が適しているかどうか、話し合う機会を多くもった。しかし、途中で職員の入替えもあり、なかなか定着できなかった。当たり前の環境を全職員で見直していくことで、より教育的価値のある環境へと変化させていきたいと思う。
 ・保護者に幼稚園の取組を伝える工夫が必要である。

4. 学校関係者評価委員による自己評価の検証

・保育所交流は、年度初めに年間計画を立て積極的に取り組んでいった方が良い。
 ・幼稚園では、たくさん散歩に出かけてしっかり歩く経験をさせてあげてほしい。
 ・お散歩への安全面は、役員さんに協力を得ながら実施したらよい。